

PREMET新聞

[伏見と水] コース

水質調査チーム、バックテスト実施する

鴨川と宇治川の水質調査を実施しました。ここ数年で、伏見の川がきれいになったような気がしたというところから、今回の調査となった。和田調査官と光村調査官は鴨川・淀川・宇治川に出かけていきそれぞれの水質調査(バックテスト)を行った。その結果、鴨川が一番きれいで、2番目は宇治川で、3番目が淀川でした。



川の生物(水と生物の関係)

「宇治川の生物と歴史」チームは、宇治川の生物を集めに行きました。釣り竿・虫網などを準備しましたが、魚については時間がなかったせいもあり捕獲できませんでした。そこで、現地で釣りをさせていた方々にインタビューをしました。その結果、ブラックバスやハイジャコ・鮎・タナゴ・ブルーギルなどが釣れることを教えていただきました。



宇治川は、日本最大の湖琵琶湖を源とする川で、瀬田川、宇治川、他の河川と合流して淀川となり大阪湾に流れ着きます。上流では、琵琶湖に住む魚と同じ生物が生息しま

能あるヤツは酒を調べる

宿場町・港町の地酒

すが、下流の淀川になると水質が悪くなるため魚の種類は減るそうです。



十石舟に乗る

淀川三十石船を覆っています。運行します。は旅客専用の船。伏見港には、(期間11月1日)で、伏見南浜から大坂八軒屋までを1日2回運行人の出入りも多。大蔵記落語「三十石船」西園の諸大名も念館裏や浪曲「森の石船で伏見まで来有名です。船の道へ向かいまし形は、17メートル幅2.5メートル、30石船をかたす。途屋根のように船が宇治川派流を倉了以



の碑や酒蔵を船から眺めることができます。

伏見の水

硬水と軟水

硬水か軟水かを決めるのは「硬度」です。硬度とは水のなかに含まれるカルシウムとマグネシウムの合計量を数値化したもので、この数値が高いものを硬水、低いものを軟水と呼びます。わかりやすく言えば、カルシウムとマグネシウムが多く含まれている水が硬水、少ない水が軟水ということです。

御香水

伏見全町の総氏神である御香宮神社(こののみやじんじや)には、その名の由来ともなった「御香水(ごこうすい)が湧き出ています。伏見はかつて「伏水」と記されていたように昔から良質の地下水に恵まれてきましたが、平安時代に境内から香り高い水が必要とされているものもある。

名水調査隊

きき水をしました。御香宮の水や水道水を準備し、いろいろな水を飲み比べました。その中で一番おいしくなかったのはやはり水道水でした。

「名水」とは、保全状況が良好で地域住民等による保全活動があるということであり、「そのまま飲める美味しい水」という意味ではない(飲用には煮沸が必要とされているものもある)。

なお、環境省は2008年(平成20年)6月、新たに「平成の名水百選」を選定した。これと対比して「昭和の名水百選」とも呼ばれる。両者に重複はなく、合わせて200選となる。

名水百選

名水百選(めいすいひやくせん)とは、1995年(昭和60年)3月に環境庁(現・環

境省)が選定した全国各地の「名水」とされる100ヶ所の湧水・河川(用水)・地下水である。